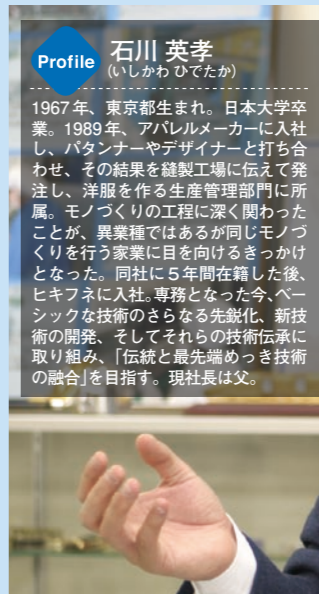


「あらゆる製品に使われている「めっき」」

「まず、簡単に御社の事業内容を教えてください。」

石川「いわゆる「めっき」加工です。若い人達にはあまり知られていませんが、身のまわりのあらゆる物に使われている技術です。当社では4つのめっき事業を行っています。その1つが「裝飾めっき」で、例えばカバンやバッグなどの金具やライター、ペン、化粧品などの金具、金属部分のきれいな外観。最近ではデジカメや携帯電話などの金属的な風合いを醸し出しているのも裝飾めっきです。2つめは「機能めっき」と呼ばれる、めっき皮膜そのものが特性を帯びる技術です。金めっきは通電性に優れ、銀めっきは抗菌性に優れる。また、水を弾いたりテープ等にも付かないめっき皮膜もあります。3つめは光ファイバー



Profile 石川 英孝 (いしかわひでたか)  
1967年、東京都生まれ。日本大学卒業。1989年、アパレルメーカーに入社し、パタンナーやデザイナーと打ち合わせ。その結果を縫製工場に伝えて発注し、洋服を作る生産管理部門に所属。モノづくりの工程に深く関わったことが、異業種ではあるが同じモノづくりを行う家業に目を向けるきっかけとなった。同社に5年間在籍した後、ヒキフネに入社。専務となった今、ベシクな技術のさらなる先鋭化、新技術の開発、そしてそれらの技術伝承に取り組み、「伝統と最先端めっき技術の融合」を目指す。現社長は父。



ごく限られた分野に専門特化した企業が多い業界にあって、ヒキフネはベルトのバックルから光ファイバーまで幅広い産業分野を相手に「めっき」を手がける異色の会社。社員の平均年齢34歳。この古くて新しい「めっき」技術の奥深さを、石川は目を輝かせて語る。目標は、自社のめっき製品を「ブランド」にまで高めることだという。

# どれだけ機械化が進んでも、最後はやはり人です。

「毎年10人の新卒採用をし、人材育成に情熱をかける」



ヒキフネ専務取締役  
**石川 英孝**  
いしかわひでたか

「若い人が多く、人材育成にも熱心です。」

石川「正社員の平均年齢は32歳。この規模の製造業としてはかなり若いですが、毎年10人くらいの新卒を採用しています。人材育成としては、毎年3〜4人をめっき技能士の学校に通わせる一方、外部セミナーにも積極的に社員を派遣しています。これは男女の区別なく、積極的に手を挙げた人によってもらうようになっています。」

「新卒を毎年10人も採用するのは、新しい人によって常に新しい風を入れ、会社を活性化させていくためです。また、今は自動制御の機械があり、極端な話、ボタンを押せば仕事ができる時代。しかし当社はそうではありません。めっきの技術を支えるのは、やはり「人」です。人が育たないと会社は成り立たない。だから若い人をたくさん採用するし、人材育成にも熱心に取り組むわけです。」

「企業価値を高めてブランドを確立したい」

「目指す会社像 また将来の夢は？」

石川「価値ある会社です。めっきは産業に不可欠な技術ですが、会社が社会から必要とされるには価値ある会社でなければなりません。製品の価値、それを生み出す人の価値……」



1.ダンディーな石川専務はみんなの人気者！ 2.携帯電話やデジカメにも使われる「めっき」の技術 3.4.男女問わず、若い社員が活躍しているヒキフネ。社員の平均年齢は34歳

就職は、会社の規模だけで判断すべきではない。自分が何をやりたいのかを考え、それができる会社かどうかで判断してほしい。

「全国で数社しかできない光ファイバーのめっき」

「御社の特色はどんなところですか。」

石川「第1は、守備範囲の広さでしょう。どちらかと言えば、あるめっきの種類に特化して仕事をしている会社が多いなか、当社は4つの事業のための沢山のめっきを手がけています。2つめは、30年ほど前から社内技術部を設けていることです。この業界で単独で技術部を置く事は珍しいほうで、これまでに数多くの新技術や新製品を開発してきました。3つめが厚みをコントロールする技術。昔の裝飾めっきはきれいに見えれば良かったのですが、今は他の部品との組み合わせの都合上、きれいで且つ決められた厚みにめっきが出来ないといけません。電気を使うめっきでの厚みコントロールは非常に難しいのです。しかし、この技術求めて海外の高級ファッションブランドからバッグのファスナーのオファーがきたこともあり、大手電機メーカーからの問い合わせも多数寄せられています。」

「光ファイバーのめっきも当社の特色です。光ファイバーにめっきが出来る專業会社は、現在、全国でも数社しかないのではないのでしょうか。素材がガラスなのでめっきをするプロセスが非常に難しく、当社でも1年ほど試行錯誤した末にその技術を」

「あらゆる面で会社の価値を高めていかなないと、当社だけでなく業界自体の存続も危うくなります。それは日本の産業に大きなダメージを与えます。だから、自分たちの価値を高めていくことは、社会的な責任とさえ言えるのではないかと思います。」

「また有害物質を使わないめっきの開発など、地域における会社の価値も重要です。これからは東京・葛飾の地で事業を続けていきたいので、例えば、「葛飾で最も環境に配慮している企業」と言われるようになりたいですね。」

「そしていつか、「ヒキフネブランド」を確立したい。製品のパーツに「ヒキフネ」のロゴが入り、「このマークがあれば高品質で安全」とわかってもらえるようなコラボレートブランド」

「結婚を機に自分の人生を見つめなおす」

「石川さんは子どもの頃から事業を継ぐことが決まっていたのですか？」

石川「いいえ。祖父が創業した会社ですが、関わりといえば高校時代にアルバイトをしたり、会社のお祭り、年末の餅つき大会等のイベントに参加した程度で、大学卒業後は5年ほどアパレルメーカーに勤めていました。」

「でも、社会に出るとだんだんこの会社で生きていけるようになってきた。祖父が創業して、叔父、父と受け継がれた会社、創業70年の伝統はどうなるんだらう……と。その気持ちが、日々強くなり、会社を継ぐという決断に至ったと思います。そこで28歳で結婚したときを機に、「後を継ぎたい」と父に伝えました。自分の人生を変えるんだという気持ちがあったのかもしれません。」

「若い世代の積極採用で常に新しい風を」

「社員の皆さんのやりがいとは？」

石川「やはり、自分たちの手がけたものを見る喜びでしょう。まだ形になっていないものを加工するので、それが何なのかは分からないわけですが。それがあって、テレビや広告でデジカメなどのCMを見て、「あ、この部分はうちでやっつたんだ」と気づくことがあります。この喜びは大きいですよ。」

「また、めっきは奥が深い技術なので、モノづくりの好きな人はかなり増すでしょうね。」

「最後に、読者である学生にメッセージをお願いします。」

石川「仕事選びで最も大事なものは「自分が何をやりたいのか」ということ。いくら名の通った会社に入っても、やりたくない仕事では満足できません。また、やりたいことが決まったら、大手だけでなく、必ず中小も訪ねてほしい。そして大手と中小、どちらが本当に自分のやりたいことができるか……という視点から判断してほしいですね。」

「モノづくりの根本は現場にあります。現場を見て、産業を支えているのは、機械ではなく人なんだということを実感してほしい。そして私たちが、10年、20年先を見据えてそういう人を育てています。モノづくりに興味のある人は、ぜひ当社を訪ねていただきたいですね。」

The Management Data File  
経営者データファイル

お名前.....石川 英孝  
生年月日.....1967年5月14日  
東京都 生まれ  
身長.....174cm  
体重.....74kg  
平均睡眠時間.....6時間  
平均起床時間.....午前5時30分  
趣味.....ゴルフ、グルメ、お酒

乗っている車.....アウディ  
家族.....妻、娘1人  
今までに訪れた国.....おおよそ12カ国  
購読雑誌.....フジサンケイビジネス、Newsweek  
今日の財布の中身.....50,000円  
好きな食べ物.....何でも好き  
嫌いな食べ物.....なし

会社概要 株式会社ヒキフネ

所在地 ● 東京都葛飾区東四つ木2-4-12  
創業 ● 1932年(昭和7年)  
資本金 ● 2400万円  
事業内容 ● 各種めっき加工  
従業員数 ● 約150名(パートを含む)  
関連会社 ● 株式会社ヒキフネ金属工芸、株式会社ヒキフネ技研  
URL ● <http://www.hikifune.com>



就職情報はコチラ